



日本国際教育学会

JIES NEWSLETTER

February 2004 No.15

ニューズレターダイジェスト

1. 学会長挨拶
2. 2003年春季研究大会報告
3. 第14回大会報告
4. 事務局だより
5. 紀要『国際教育』第10号原稿募集
6. 図書紹介
7. 寄贈文献一覧



第14回大会にて (2003年11月9日, 中部大学)

木を見るのか、森を見るのか、それとも何も見ないのか

会長 延岡 繁 (中部大学)

第14回大会は、愛知県春日井市の中部大学で2003年11月8日(土)、9日(日)の2日間に開催されました。大変に交通不便なところでしたが、多数の学会員のみなさま、それに学会に興味を持たれた学会外の方々も参加していただき、感謝でした。参加者は遠方はモンゴル、ハワイからも来られ、また、他の学会や結婚式(御自分のですか?)を途中で抜け出して来られた方もおられました。開会の前夜に名古屋市内で理事会を開催いたしました。これも盛会で感謝でした。

大会のテーマは「グローバリゼーションと国際平和教育」でした。初日の武者小路公秀先生の御講演「グローバル時代の人間安全保障—とくに排外主義克服を目指して」が、先生独自の観点から問題を捉えておられたと思います。学会員による自由研究発表(全16題)も実に多様で、それが本学会の特徴の一つですが、発表された論文の関係地域もアジア、ヨーロッパ、南北両アメリカ、日本にまたがり、研究の対象も過去のものも、現在のものもありました(プログラムの紹介と反省は別項に省略)。お忙しい中を遠方からおいでいただき、研究発表して下さった方々には重ねてお礼申し上げます。但し、最後の総合討論会ですが、準備不足と時間の関係から、学会そのものに対する要望や期待などを話し合うまでには行きませんでした点、お詫び致します。

さて、昨年と今年の間は何が変わったのでしょうか。当学会内で変わったことは、あまりありません。理事や役員は2年制ですから。しかし、世界の情勢は大変に変わりました。わたしは「狼少年」ではありませんが、遂にイラクで戦争が起こり、終わりました。そして、日本がその戦後処理に大きく関わってきました。皆さんのご親戚やご近所や学生やお知合いの中にイラクに行かれる方はいないのでしょうか。「それが学者の学問と何の関係があるのか」、「雨が降ろうが、嵐が来ようが、ただ、学問を続けるだけだ。それが学者の道だ」と言われる先生方もおられるでしょう。また、「わたしはまだ院生ですから」とか「今は研究に忙しいので」とか言って世間の動きに疎んじているスキに、いつの間にか誰かさんたちによって、憲法は改正され、税金は上げられ、年金は下げられ、医療保険費はカットされ、いや、日本の「教育」も改革され、全く別のものになってしまう可能性があるのです。「教育改革」はもう何十年も前から世の論者や知者の先生方から叫ばれておりますし、現在では、政治家の先生方も日本構造改革論の中で盛んに申しておられます。何でもそうですが、一度変えられてしまっただけから、「わたしは改革には反対だった」などと言っても、時は既に遅いのです。誤解を避けるために申し上げますが、わたしは、何かの特別な団体や主義や主張の宣伝や伝達をする者ではありませんし、誰にも何も頼まれてもいません。

さて、話は別ですが、本の再販制度が改正され、やや古い参考書の入手が難しくなったとお感じになられた先生はおられませんか。昔と違い、現在、本は非常に限られた短期間しか本屋さんの棚に置かれていないのです。本は本屋さんで見たら直ぐに買うべきで、「来週また顔でも洗って出て来ようかな」では遅すぎる場合があります。「研究」は確かに学者の生命ですが、学者もまたこの世に生きていかなければならない筈です。わたしは当学会員の方々の大切な研究が、この世で生きて役立つことを切に願い、あえて馬鹿げた駄文を書いて紙面を汚しました。どうぞ失礼をお許しください。

2003年春季研究大会報告

2003年春季研究大会実行委員長 西村 俊一（東京学芸大学）

標記研究大会（2003年4月19日、東京学芸大学国際教育センター）は、予想を遙かに上回る数の研究報告と、北の仙台や南の沖縄に至る全国各地からの参会者を得て、盛況裏に終了した。また、大会終了後の懇親会（中華料理「喜楽」）も大変賑やかであった。

延岡繁学会長から本大会の開催引き受けを打診されたときは、若手研究者の研究発表の機会を設けるとの趣旨に鑑み、小規模であっても実のある研究会でさえあれば良いのであらうと、気軽にお引き受けしたのであった。しかし、実際には、若手研究者の生気溢れる研究報告に加えて、年季の入った古手研究者による研究報告もなされたため、プログラムの編成と円滑な進行に一苦労する羽目となった。嬉しい悲鳴というものである。なお、研究報告の時点でテーマを変更しているケースがあり、井上勝也元副会長の厳しいお叱りもあったが、今後はなるべくその様なことのない様にすべきであらう。

ちなみに、全国共同利用施設の東京学芸大学国際教育センター（旧称・海外子女教育センター）は本学会の創設とも深い縁のある機関であるが、この様な研究会をお引き受けしたのは初めてのことであり、その意味でも感慨深いものであった。松崎巖初代会長は、「この学会は、横滑りすることはないが、倒れることはある」（「右や左の政治勢力にすり寄りたりすることはないが、財政破綻することはない」の意）と云って笑っていたが、確かに、その後の歩みは危なっかしいものであった。しかし、最近では、若手研究者や外国人研究者の数も増え、他に例のない文字通り「国際的」な雰囲気学会として成長し始めている様であり、同慶の至りである。

最後になったが、快く司会をお引き受け頂いた諸先生や大会運営にご尽力頂いた学会事務局の諸氏に、心よりお礼申し上げたい。

第 14 回 大 会 報 告

1. 第 14 回大会を終えて～世界平和に無関心でもよいのでしょうか～

第 14 回大会実行委員長 延岡 繁 (中部大学)

去る 11 月 8 日, 9 日の 2 日間, 愛知県春日井市の中部大学人文学部で日本国際教育学会第 14 回大会が開かれました. 交通不便な土地でしたが, 多くの会員の参加があり, 大会実行委員長としては大喜びでした. 参加された皆様には厚くお礼を申し上げます. 前夜に名古屋市内で理事会を開き, スタートしました. 本大会中に, 本学会名誉理事, 武者小路公秀先生をお招きし, 「グローバル時代の人間安全保障—特に排外主義克服を目指して」と題して特別講演会が開けたことも喜びの一つでした. 武者小路先生には 96 年秋季, 明治学院大学で開催された第 7 回研究大会でも御講演をして頂いたことがあります. 今回の大会には 18 名 17 題の研究発表の応募があり, 限られた会期内に分科会なしのプログラム内に組み込みましたので, きつい日程となりました.

第 1 日目の午前中は会員 7 名による欧米諸国の教育事情の 6 題の各論的研究発表で, アメリカ関係が 4 編, ユーゴ, フランス関係が各 1 編ずつでした. 午後は特別講演会に続いて, 総合討論会, 年次総会を開きました. 議長は沖縄から参加の金城先生 (シアトル大学東アジア校理事長) が選出され, また, 次年度春季研究大会が岡田昭人会員所属の東京外語大にて 2004 年 4 月 3 日開催と決定しました. 夜は近くのレストラン「あさくま」で懇親会となり, 出席者には遠く国内は沖縄, 北海道, 海外からはハワイ, モンゴルからの方もいました.

第 2 日目, 午前中は会員 5 名の研究発表があり, 関係国も日本, 中国, マレーシア, 英国などで, テーマも政治, 教育, 宗教, 文化, 社会, 女性問題などと多様でしたし, 「世界が変革している中で, 変革せざるを得ない教育」の姿が見えてきた感じでした. (1 会員が急に出席できなくなり, 論旨の配布でご容赦をお願いしました.) 午後は引き続き 5 会員の研究発表で, 最近の教育界の動向として, 発表者が提起した問題は, (1)英米, オーストラリアなどで留学生の受け入れが「特発的に」活発化していること, (2)ブラジルの初等教育制度が非常に改善されたこと, (3)中国の対日関係が急変(悪化か), (4)日本古代史像が日本の内外で変化, (5)デューイ, カッシーラー教育論からボディ教育論へなどでした. その後, 「総合討論会」に移ったのですが, 発表者への質疑応答の他, 学会員や出席者の方々が幅広いご意見を出しあい, 今後の学会の方向も検討できればとも考えましたが, 時間的な制約もあり, 意見をご用意されても発表ができずに帰られた方も出て, やや残念でした.

この学会の開催中もイラン, パレスチナ, アフガニスタンなどでは「停戦下の戦闘」があり, わたしたちの研究とその学会発表も非常に重要ですが, 国際教育学者なら, 同時に世界の動きを「見ず, 知らず」では済まされないのではないかと感じました. 但し, 誤解を招かぬように公言致しますが, 当学会はどこの, どの国や団体や思想や主義主張にも賛成も反対も代弁もしていません. ただ, 「世界平和と国際教育」という大会の主題が武者小路先生の特別講演会だけで終るならば, 惜しいと反省しております. 参加者の多くの方々が燃えるように紅葉した並木に囲まれた広くて美しくてゆとりのあるキャンパスをほめて下さいました. それこそ教育者の課題である, “Quality of Life, Quality of Education”(生活と教育の質的向上)の示唆だと思います. 学会に参加され, 発表, 司会, 受付などして下さった会員のみならず, 本当にありがとうございました. 次回の春季大会にも大いに集い, 大いに盛り上げて行きましょう!

2. 第14回日本国際教育学会総会議事録

日時：2003年11月8日 17:00-18:00

場所：中部大学人文学部 2811 教室

司会：志賀 幹郎

- I. 開会の辞 [志賀幹郎事務局長]
II. 第14回大会実行委員長・学会長挨拶 [延岡繁第14回大会実行委員長・会長]
III. 議長選出

司会者より議長選出について会場に諮問があり、宮脇弘幸会員から推薦のあった金城栄喜会員を全会一致により選出し、同人は議長に就任した。

議長は、就任の挨拶に続いて、審議に先立ち本総会の定足数と出席者数について、事務局にその報告を求めた。志賀幹郎事務局長より、次のとおり報告がなされた。

- ① 国内在住の正会員数 116名
- ② 出席者数 33名
- ③ 委任状 27名

議長は、上記の報告に基づき、日本国際教育学会規則第5条第2項の定める定数を充足しているため、本総会は適法有効に成立している旨宣言した。

議長は、本総会の議事録作成人を指名したい旨提案し承認を受け、同作成人に山崎直也会員を指名した。その後、議長は、次のとおり上程議案を決定した。

【総会議案】

- ① 2002年度事業報告（案）について
- ② 2002年度決算報告（案）および監査報告について
- ③ 紀要第9号編集委員会報告について
- ④ 紀要第10号の編集方針について
- ⑤ 2003年度活動計画（案）について
- ⑥ 2003年度予算（案）について
- ⑦ 選挙管理委員会の選出について
- ⑧ 2004年の研究大会（春季・秋季）の開催について
- ⑨ その他

IV. 報告承認事項

1. 議長は、各議案の審議上、提案議案について、相互に関連する第1号～第2号、第3号～第4号、第5号～第6号議案を一括上程することを提案し承認を受け、順次そのように審議する旨宣言した。
2. 議長は、まず第1号～第2号議案を一括上程し、事務局より提案趣旨の説明を求め、志賀幹郎事務局長より同議案の説明がなされた。
3. 議長は、その後、質疑に先立ち監査報告を求めた。小川彩子（2003年9月4日監査）、小宮明彦（2003年9月4日監査）の両会計監査人に代わり、別紙監査報告書のとおり、志賀幹郎事務局長より報告がなされた。
4. 議長は、以上の上程議案について質疑を受ける旨はかり、質疑応答の後討論を終結し、採決を宣言し、同議案は原案のとおり全会一致で可決決定した。
5. 議長は、第3号～第4号議案を一括して上程し、提案趣旨の説明を求め、岡田昭人紀要第9号・第10号編集委員長より、報告がなされた。

議長は、同議案について質疑応答の後採決し、同各議案を全会一致により可決決定した。

6. 議長は、第 5 号～第 6 号議案を一括して上程し、事務局の趣旨説明を求めた。志賀幹郎事務局長より説明がなされ、次のような質疑応答がなされた。

- ・ ニュースレターや紀要等で、学会 **Web** サイトの周知を図るべきではないか。(宮脇弘幸会員)
→志賀幹郎事務局長より、今後そのように対応していく旨答弁がなされた。
- ・ 前期執行部から課題として持ち越されていた海外在住会員からの会費徴収の問題と規約の改正問題の処理は、どのようになっているか。(井上勝也会員)
→前者については、志賀幹郎事務局長より、海外会員からの会費徴収については、現執行部でもその方法を検討中であり、活動計画(案)にあげられた「財政の安定化」の一環として、今後取り組んでいく方針である旨答弁がなされた。
後者については、金城栄喜議長から、学会規約は既に第 13 回総会で大幅に改正され、その改正内容がニュースレター**No.14 (2003 年 2 月発行)**を通じて会員に通知されている旨説明がなされた。

7. 議長は、以上の上程議案について質疑を受ける旨図り、質疑応答の後討論を終結し、採決を宣言し、同議案は原案のとおり全会一致で可決決定した。

8. 議長は、第 7 号議案について上程し、選挙管理委員長及び選挙管理委員への立候補・推薦を求めたところ、志賀幹郎事務局長より、理事会案として、委員長に前田耕司会員、委員に末永ひみ子会員、佐藤千津会員、児玉奈々会員、山中冴子会員、末藤美津子会員を推薦する旨提案がなされた。議長は、同提案について質疑を求め、質疑応答がなされ、その後採決をはかったところ、全会一致で理事会案が可決決定した。

9. 議長は、第 8 号議案について上程し、事務局に提案趣旨の説明を求めた。志賀幹郎事務局長より次のとおり説明がなされた。

① 2004 年春季研究大会について

日 程：2004 年 4 月 3 日(土)
会 場：東京外国語大学府中キャンパス
実行委員長：岡田昭人会員

② 2004 年秋季研究大会について

会場校は、帝京大学に内定。その他の詳細については、執行部に一任する。

議長は、上記提案について、質疑を求め、質疑応答がなされ、その後採決をはかったところ、全会一致で可決決定した。

10. 議長は、第 9 号議案について上程し、提案を求めた。理事会より、次の 2 点につき提案がなされた。

- ① 第 14 回大会の開催にあたり寄付を賜った中部大学に対して、紀要第 1～9 号を寄贈してはどうか。
- ② 先頃御逝去された名誉理事の田口孝雄氏に対し、これまでのご助力に感謝する意味で、学会長名で弔意を申し上げてはどうか。

議長は、以上の 2 つの提案について、質疑を求め、質疑応答がなされ、その後採決をはかったところ、全会一致で可決決定した。

V. 閉会の辞 [延岡繁会長]

上記は第 14 回日本国際教育学会総会議事録であることを認証する。

2003 年 11 月 9 日

第 14 回日本国際教育学会総会 議長 金城 栄喜

3. 2002年度（第13年度）決算報告

日本国際教育学会 第13年度決算報告

（期間：2002年8月1日～2003年7月31日，単位：日本円）

総収入金額	1,379,292 円
総支出金額	776,144 円
差引残額	603,148 円

【収入の部】

項目	予算額	決算額	詳細
前年度繰越金	286,185	286,185	郵便振替口座132,940/郵貯151,608/東京三菱1,165/その他472
会費	1,125,000	954,000	5,000円×42口/7,000円×2口/10,000×73口
利子	500	7	
紀要販売	60,000	139,000	
寄付金	150,000	0	
雑収入	60,000	100	通帳開設費
収入合計	1,681,685	1,379,292	

【支出の部】

項目	予算額	決算額	詳細
旅費	80,000	21,130	理事会
消耗品	20,000	11,089	封筒，ラベル用紙etc.
郵送料	160,000	90,470	Newsletter/紀要/春季大会案内/理事会開催通知etc.
会合費	135,000	10,667	理事会/紀要編集委員会
大会開催補助費	100,000	0	第14回大会
印刷費	650,000	619,374	NewsLetter14号/紀要8号/第13回大会総会配布資料/第14回大会報告募集
謝礼	120,000	0	事務局アルバイト代/発送作業アルバイト代
コピー代	20,000	7,169	理事会配布資料etc.
雑費	10,000	5,600	車両貸借料/振込用紙印字代
予備費	36,685	10,645	振り込み手数料/寄付金/花束代
小計	1,331,685	776,144	
次年度繰越金	350,000	603,148	
支出合計	1,681,685	1,379,292	

上記の通り報告いたします。

2003年 8月 / 日

事務局長 志賀幹郎 (印)

監査の結果、正確であったことを認めます。

2003年 9月 4日

会計監査 小川彩子 (印)

2003年 9月 4日

会計監査 小宮明彦 (印)

4. 2003年度（第14年度）予算案

日本国際教育学会 第14年度予算案

（期間：2003年8月1日～2004年7月31日，単位：日本円）

【収入の部】

項目	予算額	備考
①前年度繰越金	603,148	郵便振替口座463,000/郵貯132,982/東京三菱7,166
②会費	920,000	会費納入率70%
③利子	10	
④紀要販売	120,000	
⑤寄附金	150,000	第14回大会開催補助（中部大学）
⑥懇親会参加費	100,000	第14回大会懇親会（一般3,000円×20名，学生2,000円×20名）
⑦報告要旨販売	35,000	第14回大会（1冊500円×70部）
⑧雑収入	30,000	
収入合計	1,958,158	

【支出の部】

項目	予算額	備考
①旅費	30,000	理事会、編集委員会
②消耗品	30,000	封筒，ラベル用紙など
③郵送費	150,000	
④会合費	30,000	
⑤大会開催補助費	100,000	第15回大会補助費
⑥印刷費	550,000	紀要，名簿，第14回大会報告要旨集など
⑦庶務費	150,000	
i) 謝礼金	100,000	学生アルバイトなど
ii) コピー代	30,000	
iii) 雑費	20,000	
⑧懇親会支払い	140,000	3,500円×40名
⑨予備費	28,158	
小計	1,208,158	
⑩次年度繰越金	750,000	
支出合計	1,958,158	

事務局だより

1. 紀要定期購読会員募集

本学会では、紀要の定期購読会員（団体）を募集しております。大学図書館、各種団体図書館などで購読を希望される場合は、学会事務局までご連絡ください。

2. 新入会員紹介

2002年度第3回（2003年4月19日開催）、および2003年度第1回（2003年10月4日開催）、第2回（2003年11月7日開催）の常任理事会で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。

氏名	所属	会員の種別	国籍
Edward R. Howe	トロント大学大学院	学生会員	カナダ
Gregory S. Poole	高千穂大学	正会員	米国
Lucia Filomena Mejeant Kuja	エクアドル教育省二言語教育課	正会員	エクアドル
岩永 尚子	津田塾大学国際関係研究所〔非〕	正会員	日本
太田 浩	一橋大学	正会員	日本
櫻村 あい子	一橋大学大学院	学生会員	日本
片野 英一	広島大学大学院	学生会員	日本
キム ミンギョン	一橋大学大学院	学生会員	韓国
謝 嬌文	広島大学大学院	学生会員	台湾
謝 保群	神戸学院大学大学院	学生会員	中国
曹 念慈	広島大学大学院	学生会員	台湾
谷川 とみ子	京都大学大学院	学生会員	日本
鶴田 洋子	オックスフォード大学大学院	学生会員	日本
鄭 楊	大阪市立大学大学院	学生会員	中国
中川 まち子	一橋大学〔非〕	正会員	日本
費 駟闌	広島大学大学院	学生会員	中国
福井 朗子	東京農工大学大学院	学生会員	日本
馬 静	東京外国語大学大学院	学生会員	中国
村山 拓	東京大学大学院	学生会員	日本
森 謙介	中部大学大学院	学生会員	日本
吉村 美紀	早稲田大学大学院	学生会員	日本
李 明玉	北海道大学	正会員	中国

（日本語読み、50音順）

3. 学会ウェブサイトをご活用ください!

日本国際教育学会ウェブサイト (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/>) では、研究大会の開催情報など、学会の最新情報を随時お知らせしております。ぜひご活用ください。

4. 連絡先・ご所属変更をお知らせ下さい。

4月からの新年度を迎え、所属変更にともない会員資格に変更がある方、連絡先が変更になる方がおられましたら、事務局長補佐の山崎直也までメール (nayamaz@sf7.so-net.ne.jp) または FAX (03-3936-2723) にてご一報下さい。

なお、昨年11月にお送りした会員名簿に誤記がありました。呉尊民会員の所属が、「華東師範大学(院生)」となっておりますが、正しくは「華東師範大学助教授」です。訂正してお詫び申し上げます。

学会紀要『国際教育』第10号原稿募集

日本国際教育学会は本年度で創設15周年を迎えます。また、学会紀要『国際教育』は第10号を刊行することになりました。そこで、紀要編集委員会では『国際教育』第10号の発刊に際し、記念特集を企画しております。特集の主旨として、(1)国際教育学研究の理論的レビュー、(2)国際教育学研究の課題と展望および評価と提言等に関する投稿を募集しております。合わせて(3)『国際教育学』総目次一覧等を掲載する予定であります。また、この他にも従来自由投稿論文、調査報告、教育情報、書評、資料紹介も募集いたします。**(2004年5月10日締め切り)**

投稿希望の会員は、下記の要領にしたがって投稿して下さい。詳しくは、「紀要投稿要領」をご参照下さい。なお、紀要投稿要領をお持ちでない方は学会事務局にご照会下さい。

1. 論文のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。
2. 掲載論文は、口頭発表の場合を除き、未発表のものに限る。
3. 使用言語は、日本語、英語、中国語とする。
4. 原稿は横書き・ワープロ書き・ポイント10.5ポイント・A4版に1行40字×40行(1,600字)、執筆分量は、和文では、論文28,000字以内、研究ノート及び調査報告書4,800字以内、書評・資料紹介2,400字以内。英文では、それぞれA4ダブル・スペース22行で35-40字以内、9枚以内、4枚以内。中文では、それぞれ16,000字以内、2,700字以内、1,200字以内。英文原稿はAmerican Psychological Association's Manual of Style, 4th Editionに準拠する。題目は12ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて30文字、英語の場合は15語以内とする。
5. 投稿原稿には和文論文には英語500語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨(A4×1枚程度)を添付し、原稿と要旨を各3部(うち2部は複写、匿名とする)提出する。
6. 投稿原稿は**2004年5月10日(当日消印有効)**までに、紀要編集委員会事務局宛提出するものとする。

なお、第二段審査では修正原稿(ハードコピー)とともにフロッピー原稿(英文要旨を含む)も提出していただきます。

*問い合わせ先・原稿送付先：

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学 岡田研究室
紀要編集委員長 岡田昭人

TEL : 042-330-5404 E-mail : aokada@tufs.ac.jp

CALL FOR PAPERS: *INTERNATIONAL EDUCATION*, Volume 10

Submissions to the 10th edition of *International Education* are now being accepted, with a **deadline of May 10th, 2004**. This memorial issue will include both solicited and unsolicited manuscripts. Authors making unsolicited submissions in English should review these guidelines:

1. Manuscripts include research articles and research notes, which must be the original work of the author(s).
2. Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than forty pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
3. For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the *Publication Manual of the American Psychological Association*.

Example:

Smith, J. (2000). The educational challenges of the new century. New York: Broadway Publishing.

Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. Harvard Business Journal, 14 (1), 654-675.

4. Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. A floppy disk version, saved in RTF format, should also be included.
5. All English manuscripts must include a Japanese abstract that is one page in length (A4 size).
6. All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient.
7. Authors for whom English is a foreign language are recommended to have their manuscripts carefully proofread by a native speaker of English before submitting the paper. Writers who submit manuscripts that have so many English mistakes so as to make the content indecipherable risk having their papers rejected.

Electronic versions of manuscripts will not be accepted. Please send all submissions by regular post to Akito Okada, Tokyo University of Foreign Studies, 3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534. Inquiries about the journal may be directed to Professor Okada by telephone at 042-330-5404 or E-mail at aokada@tufs.ac.jp

図 書 紹 介

江原裕美編『内発的発展と教育 人間主体の社会変革と NGO の地平 (Endogenous Development and Education: Transforming Society for the People and the Possibilities for Non-Governmental Organizations)』新評論, 2003 年 12 月, 全 480 頁, 3,800 円 (税別), ISBN4-7948-0613-2.

本書は NGO や住民組織による, 住民主体の教育実践の例を世界各地に探すというミクロな視点から, 内発的発展と教育との関わりを探究しようとするものである. 外国人 5 名を含め執筆者・翻訳者総勢 23 名により, アフガニスタン, タイ, ガーナ, エクアドル, ブラジル, ミャンマー, インド, ブラジル, ドイツなどが扱われているほか, 日本の開発教育に関する論考もあり, 「人間のための」教育のあり方を総合的に考察することを目指している.

寄 贈 文 献 一 覧

学会に寄贈いただきました書籍・刊行物を紹介いたします.

河路由佳, 淵野雄二郎, 野本京子著『戦時体制下の農業教育と中国人留学生 - 1935~1944 年の東京高等農林学校』, 財団法人農林統計協会, 2003 年.

『NWECE Newsletter』 Vol.19, No.2, National Women's Education Center(NWECE), 2003 年 3 月.

『榊』第 12 号, 川村学園大学図書館報, 2003 年 1 月.

『国立情報学研究所ニュース』第 12~19 号, 2002 年 10 月~2003 年 11 月.

『会報』第 84 号, 財団法人大学基準協会, 2002 年.

『じゅあ』第 29 号, 財団法人大学基準協会, 2002 年 9 月.

『国際交流基金 NEWS』No.263~278, 2002 年 10 月~2004 年 1 月.

『アジアセンターニュース』No.22~25, 国際交流基金アジアセンター, 2002 年 11 月~2003 年 12 月.

『学校教育学研究論集』第 6~7 号, 東京学芸大学連合学校教育学研究科, 2002~2003 年.

『博士学位論文』(論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨) 第 5 号, 東京学芸大学連合学校教育学研究科, 2002 年.

『国際理解』34 号, 帝塚山学院大学国際理解研究所, 2003 年.

『児童教育研究』第 12 号, 安田女子大学児童教育学会, 2003 年.

『生涯学習論集』第 6 集, 安田女子大学生涯学習研究所, 2003 年.

『保健学系教育に関する基準』(財団法人大学基準協会資料第 55 号), 2002 年.

『21 世紀の看護学教育』(財団法人大学基準協会資料第 56 号), 2002 年.

『日本学術の質的向上への提言』(学術の在り方常置委員会報告), 日本学術会議学術の在り方常置委員会, 2002 年 7 月 22 日.

『日本学術の質的向上への提言』(学術の在り方常置委員会報告), 日本学術会議学術の在り方常置委員会, 2002 年 7 月 22 日.

『科学における不正行為とその防止について』(学術と社会常置委員会報告), 日本学術会議学術と社会常置委員会, 2003 年 6 月 24 日.

『帝塚山学院大学国際理解研究所報』第 17 号, 2003 年 4 月.

日本国際教育学会 **Newsletter No.15**

編集発行 : 日本国際教育学会 代表 延岡 繁

発行所 : 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学 留学生センター 志賀幹郎研究室気付

TEL : 0424-43-5738 (直通)

FAX : 0424-43-5742 (事務室)

E-mail : shiga@fedu.uec.ac.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/>

発行年月日 : **2004年2月16日**